

編集 後記

この稿を書いているときは関東地方まで梅雨が明け、私が住んでいるところではいきなり猛暑が続いております。さて本号（第61巻第8号）において、原著1報、研究ノート1報をお届けすることができました。是非お楽しみいただければ幸いです。

さて本雑誌には、投稿数の多い「原著」「総説」「研究ノート」「公衆衛生活動報告」「資料」を含め、全部で8つの種類カテゴリーがございます^{*1)}が、投稿論文の種類が、査読の段階で変更になることがしばしばあります。ここで、前述のそれぞれのカテゴリーに期待される内容について、簡単にご紹介させていただければ幸いです。

まず「原著」ですが、これは投稿規定^{*1)}にある通り「独創的な研究論文および科学的な観察」となります。これに対し「研究ノート」は、「公衆衛生上重要な調査・分析に関する報告（独創性を強くは求めない）」であり、「原著」と「研究ノート」との違いは「独創的な研究論文といえるかどうか」という点にあります。つまり「原著」論文には「研究の独創性」、「研究論文としての緻密性」が強く求められます。前者を示すためには、そのトピックあるいはそのトピックに近いものについて、すでに出版されている論文を探し、それらの研究を簡潔に位置づける作業の中で、自分たちの研究が「今まで実施されていない新しい研究である」ということをお示いただくことが必要になるでしょう。後者については、「研究する意義」、「研究デザインの適切性」、「十分なサンプルサイズ」、「適切な統計解析の実施」、「わかりやすい結果の表示」、「十分なディスカッション」、「結果がどのように公衆衛生の発展に寄与するのか」など、科学的、かつ公衆衛生上の観点から、十分な水準に達していることが必要になるでしょう。自分たちの研究の「科学的・社会的意義のみならず、どこが新しいのかなど」を論文内で強調いただければと存じます。

これに対して「総説」は、「研究・調査論文の総括および解説」で、最近の傾向としましては、論文検索エンジンを通して、検索する範囲を定義し、その中でシステムティックに論文を抽出しながら、それらの論文について解説するような形が多くなっているように思います。その分野を俯瞰するための羅針盤となるような報告が期待されております。

次号予告（第61巻・第9号）

原著

我が国の高校生における危険行動と睡眠時間との関連……………片岡千恵，他
武蔵野市民の終末期希望療養場所の意思決定に関連する要因

年代別比較……………石川孝子，他

研究ノート

飲用井戸水のジフェニルアルシン酸曝露後の自覚症状と流産……………緒方 剛，他

Relational coordination 尺度日本語版の信頼性・妥当性の検討……………成瀬 昂，他

次に「公衆衛生活動報告」ですが、これは行政機関やNGO・民間団体など、幅広く実施されている「公衆衛生活動」についての情報共有というコンセプトになります。自分たちの活動をご紹介いただき、どこがよかったとか、ほかの地域で実践する場合にはこういうところに気をつけて、というようなことを投稿規定^{*1)}の表3のような（これは一例ですが）構成でまとめていただければ幸いです。本雑誌に、学術論文だけではなく、このような報告があふれ、それらの報告を読むことにより、実践されている皆様が、他の地域の公衆衛生活動の実際を知ることができ、そしてそれを参考にされて、現在関わっておられるあるいは今後関わっていく事業で、さらに発展させていただければ、そしてその経験をまた「公衆衛生活動報告」としてご報告いただければ幸いと思っております。

最後に「資料」ですが、集計データ、事例の紹介、その他、公衆衛生上有用な情報をご紹介いただく場合は、このカテゴリーをご活用いただければと思います。

われわれ編集委員は、本誌が今後ますます公衆衛生の発展に貢献できるように、また本誌が皆様により愛されるように、頑張っていきますので、これからもどうぞよろしくごお願い申し上げます。（高橋秀人）

Reference:

1. 日本公衆衛生雑誌投稿規定 http://www.jsph.jp/toukougitei_201404.pdf (2014年7月27日アクセス可能)